大好き！みんなの「ブイブイの森」
～地域団体・博物館・行政と連携した環境学習～

三田市立狭間小学校３年１組３６名
発表者：岩松亮汰・小澤花恋・眞田大介・菅長楓・髙濵愛結夏・伊達匠晶
藤本直朗・牧野稟・松岡萌・山口理緒・山樋凌馬・芳田和樹
西山修子（三田市立狭間小学校　教諭）、高木正晴（ブイブイの森クラブ　代表）

はじめに

兵庫県では、小学３年生が環境学習に取り組むことになっている。本校では 2018 年度より校区にある「フラワータウン南公園（通称：ブイブイの森）」を活動拠点とし、環境学習に取り組んだ。この森は北摂里山博物館の一つとして認定され、三田市に７つある認定里山・認定森のうち、唯一ニュータウンに存在する森である。ニュータウンにありながら長年手入れがされることなくあったこの森は、校区内であることさえ認識が薄く、子どもたちにとっては“身近な自然”とは言い難い状況であった。地域の自然で活動することで、子どもたちがより自然を身近に捉え、自然と共存している感覚を体感することを目指した。森をフィールドとする学習は学校の教職員だけでは実現は難しく、森の整備や保全活動を行っている「ブイブイの森クラブ」、人と自然の博物館、行政と連携し協力を得ながら活動を行った。教育課程においては主に「総合的な学習の時間」を充てたが、森には予想以上にたくさんの学習教材があり、学習を進めるうちに各教科への広がりを見せた。その過程を報告する。

学習活動の方法・記録

①地域を知る（４月）

社会科の学習で地域について学習し、狭間が丘１丁目～５丁目のうち住居となっているのが２丁目～５丁目であることをつかんだ。「１丁目はどうなっている？」という疑問を環境学習の出発点とした。

②学校・人と自然の博物館・「ブイブイの森クラブ」・三田市公園みどり課による顔合わせ（５月）

人と自然の博物館　橋本佳延先生の提案により、四者による顔合わせを行った。学校から学習の趣旨を伝え、今後の学習についての互いのビジョンを交流した。この会には、後の連携の可能性も視野に入れ、兵庫県立北摂三田高等学校の生物野外活動部からも顧問・生徒が参加した。

③人と自然の博物館　橋本佳延先生による「森の歩き方講座」（６月）

森を散策するうえでの注意事項などを教わった。安易な気持ちで散策をすると怪我をするだけでなく、自然環境に影響を及ぼしてしまう可能性があることも学んだ。

④森の探検（６月）

「総合的な学習の時間」の１学期のテーマを「ブイブイの森探検隊」とし、森の散策を行った。子どもたちにとっては「ブイブイの森クラブ」との初顔合わせとなった。散策中雨天のため中止となったが、子どもたちなりの目線で色々な発見をしていた。

⑤夏休みの教職員研修（８月）

次年度以降も環境学習のフィールドとなるよう、人と自然の博物館　橋本佳延先生を講師に招き教職員研修を行った。３年生に限らず他学年でも森を活用できるようアイデアを出し合いながら実際に森を歩いた。

また、２学期は「ブイブイの森研究所」をテーマに学習を進めるため、各所と連絡を取り合いながら学習計画について打ち合わせを行った。

⑥シイタケプロジェクト（１０月～）

秋の大型台風の影響でクヌギの倒木があり、「ブイブイの森クラブ」の発案で倒木を活用した椎茸栽培に取り組むこととなった。

・クヌギの運び出し
・クヌギのコケ落とし
・原木への菌植え付け
・寒冷紗掛け

これら数回に渡って「ブイブイの森クラブ」の指導・協力のもと、椎茸栽培に挑戦した。収穫はおよそ２年後となるため、学校内敷地に「シイタケ園」を作り、様子を見守っている。

⑦竹太鼓（１０月～）

森には竹林があり、この竹を活用し竹太鼓の演奏に挑戦し音楽会で披露した。

・竹の運び出し
・竹の伐採見学、切り出し体験

など、「ブイブイの森クラブ」の協力・指導のもと活動に取り組み、音楽会当日はクラブの高木正晴代表を招き演奏を発表した。竹太鼓は音楽会以降も機会があれば楽器として活用している。

⑧人と自然の博物館　秋山弘之氏による「キノコ学習会」（１１月）
森のキノコに注目し、菌類やコケ類の性質や特性について教わった。色々な種類のキノコを持ち帰ることができ、学校内に展示して他学年に紹介した。

⑨デザインした看板を英語で紹介（１１月）
地域の自然を広めるために、子どもたちから「看板作り」のアイデアが出た。図画工作の学習で看板をデザインし、デザインに取り入れたモチーフを英語で紹介し合った。

⑩読書感想画『さとやまさん』（１２月）
初めて森を訪れる際、森や里山を知るために『さとやまさん』という本を読み聞かせた。この本は今年度読書感想画コンクールの指定図書となっており、森での活動を思い出しながら感想画に取り組みコンクールに応募した。

⑪図画工作「本物そっくりに作ろう」でキノコ作り（１月）
紙粘土を使って、キノコ作りに取り組んだ。森で見つけたキノコに限らず、図鑑などを調べた珍しいキノコなどの取り入れ「本物そっくり」を目指し製作した。

⑫オープンスクール「体験！ブイブイの森博物館」（１月）
３学期はこれまでの森での活動、森そのものを広く知らせるため「ブイブイの森博物館」をテーマとし学習に取り組んだ。竹太鼓体験コーナー、自然クイズコーナー、図画工作で取り組んだ紙粘土によるキノコ標本コーナーなどこれまでの取り組みを全て凝縮し、子どもたちが工夫を凝らして発表を行った。「ブイブイの森クラブ」の方が Instagram で公開している森の画像データを借り、大型画面で上映した。在校生、保護者、教職員、地域住民などたくさんの人が発表ブースに足を運んだので、地域の自然についての広報活動として目標を達成できた。また、感想コーナーを設けたので、子どもたちへの温かい励ましの言葉がたくさん寄せられた。

⑬「共生のひろば」参加（２月）
有志児童、「ブイブイの森クラブ」とで協力し参加し、これまでの活動を報告した。

⑭「ブイブイの森報告会」（３月予定）
これまでの学習の総括として、学習発表会を行う。

結果と考察

一年間を通して森での活動に取り組み、子どもたちからの姿からは森について学習を続けた自信や達成感を感じている。学級に所属する３６名全員が目的をもって活動に臨み、体験の喜びや感動を共有することができた。また、限られた社会の中で生きる子どもたちにとって色々な大人から生き様を学ぶことは大切なことで、そういった視点からもたくさんの大人たちとの関わりはとても有意義なものであった。

今年度は初年度なこともあり「体験」を主な活動としたが、森には長期に渡って「観察」「実験」できるたくさんの宝物が眠っている。３年生に相応しい学習としては、竹の生育状況を観察したり、竹がどのような生活用品として活用できるかを試してみたり、森で採集したものを調理し味を比べたり…と面白いプログラムが考えられるだろう。子どもたちが加工したものを商品（もちろん、安価で）として売ることで、経済的な活動にも取り組むこともできる。大々的に広報活動を行ってもいいし、来訪者のデータからこれからの森に求められるニーズを明らかにしてもいい。他にも、以前森に住んでいた人たちの現在を調べていくと、地域の歴史を発掘することにもつながるだろう。このように、

毎年の３年生が、その学年のカラーに合った事柄にこつこつと取り組むことによって、学校にとっても地域団体にとっても財産となるに違いない。

４０年前のニュータウン開発の前から、わたしたちの町にあり続けた「ブイブイの森」。長い年月のなかで、この町の歴史を静かに見守ってくれている。これから人々の世代が入れ替わっても、森での活動を通して地域の自然を愛し、その心を受け継いでいく環境学習に取り組んでいきたい。そして、地域に関わる人々が手を取り合い森を守っていくことが、これからのこの町の活性化につながると信じている。